



税務調査がやってきた！

ドキドキの2日間、追徴課税はあるか?!

「税務調査が入ると、何らかの追徴税を必ず探し出す。ただで帰ることはない」そんな事態が「つどい」にも。さあ、みなさんの経理は大丈夫ですか？

やましいことは無いけれど...

「つどい」は2006年11月に設立。3月末を決算期としているので、2006年度から2009年度まで4期の決算と確定申告をなんとか自力で頑張ってきました。

9月30日、所沢税務署の法人税課から突然の電話。やましい事はしていないつもりですが、不思議なもので何故かドキドキしてしまいます。「一週間後の10月7日、8日に税務調査に伺いたいのですが宜しいでしょうか？」との電話でした。税務調査は、そんなに急に日程が決まるものなのかなどと思いつつも必要書類を聞き準備しておきました。過去5年分の会計書類(決算書類、元帳、請求書、領収書、契約書など)が必要とのこと。

根掘り葉掘りと厳しい質問

2日間、朝10時から午後4時まで1名の税務調査官が担当として来ました。会計書類を渡して見てもらうだけかと思っていたのですが、まず「つどい」の組織・業務の説明、次に職場見学を求められ、一通り終わると既に正午でした。

決算書類・総勘定元帳等を細かく点検さ

れ、質問されたらその場で答えるという形で行われました。確定申告書に記入した数字の根拠を問われ、すぐには思い出せず、書類を見つめて数分、やっと思い出す。そしてほっとする暇もなく、次の質問と厳しい時間が過ぎてゆきました。また、働いているメンバーの名簿も求められ、住所記載してある名簿のコピーを提出しました。

ああ、追徴課税

2日目は契約書に収入印紙が適正に貼られているかという調査もあり、税務署にコピーを持ち帰り調べとのことでした。

また、他団体と地域活動を行う際の資金提供には非常に関心が高く、寄付行為に該当するのではないかとこのことで、細かく詳細を調べられました。

結果は213,400円の追徴課税。税務署に見えないお金の流れを作らないことが重要なようです。

企業組合ワーカーズ・コレクティブつどい
林富美代

つどい：

生活クラブ生協連合会飯能DCでの帳合事業

042-983-8011

チャレンジ!

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会フォーラム

WNJの全国会議は日常業務に追われるワーカーズにとって、自分達の働き方の価値を確認できる大きな学習の場です。でも2年に1回では物足りない(?)というわけで、「埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会フォーラム」にチャレンジします。

県内のワーカーズ・コレクティブが集い、日常の活動を報告・アピールする大交流集会です。第1回は「ワーカーズ・コレクティブができる地域貢献とは？」という投げかけで、宮城大学事業構想学部教授風見正三氏に持続可能な地域社会とコミュニティビジネスについてお話していただきます。これを受けて①食と福祉(井瀧)②法人格の意味(浅草)③新規事業(濱本)の3つの分科会に分かれます。生活の支えとなりうる働き方「ワーカーズで食べていく」をテーマにディスカッションします。*()内はコーディネーター

研修から進化した、(参加+学習)型の企画です。

2011年

2月26日(土)

13:00 フォーラム

17:00 懇親会

参加費 500円

参加費+懇親会費

2,000円

会場

生活クラブ生協

中浦和本部予定